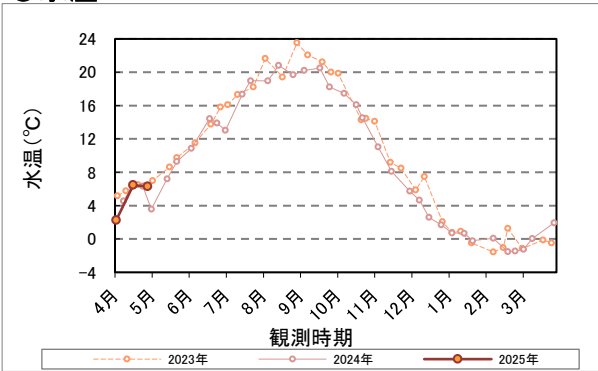


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報（2025年4月）

※海洋観測：紋別市、動物プランクトン分析：(株)エコニクス

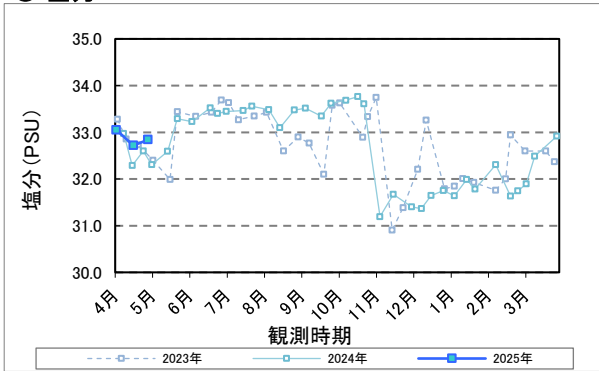
海洋環境データ

◎水温

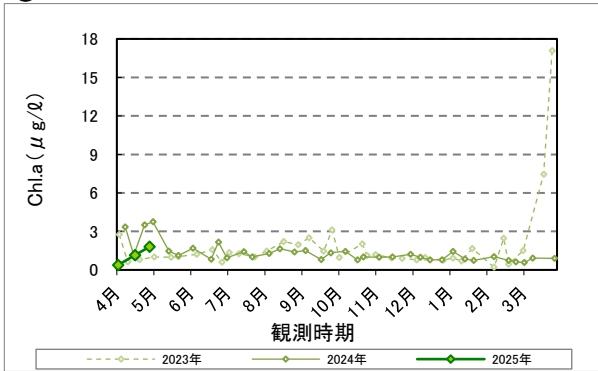


※水温、塩分、Chl. aは0～9mまでの平均値である。

◎塩分



◎Chl. a



概 要

	4月2日	4月16日	4月28日
平均水温(°C)	2.2	6.5	6.3
平均塩分(PSU)	33.1	32.7	32.8
平均Chl. a(μg/L)	0.4	1.2	1.8
沈殿量(ml/m ³)	(NORPACネット) 0.1 (北原式定量ネット) 15.6	(NORPACネット) 0.5 (北原式定量ネット) 5.9	(NORPACネット) 1.3 (北原式定量ネット) 268.8
主な出現種	(NORPACネット) ◎<i>Acartia longiremis</i> [++]◆ (カイアシ類：アカリギ・ロンギ・レミス) ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++]◆ (カイアシ類：シュウト・カラス・ニューマニ) ○<i>Eurytemora herdmanni</i> [+]◆ (カイアシ類：ユリテモラ・ヘルド・マニ) ◎<i>Tortanus discaudatus</i> [++]■ (カイアシ類：トルタス・デ・イスカウダ・タス) ◎<i>Oithona atlantica</i> [++++] (カイアシ類：オイナ・アトランティカ) (北原式定量ネット) ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++]◆ (カイアシ類：シュウト・カラス・ニューマニ) ○<i>Oithona atlantica</i> [+] (カイアシ類：オイナ・アトランティカ) ◎<i>Oithona similis</i> [++] (カイアシ類：オミカミジ・シノ) ○<i>Harpacticus</i> sp. [+] (カイアシ類：ヨコミジ・シノ属) ○<i>Balanomorpha</i> (nauplius) [+] (フジ・ツバ・類のノーブ・リウス幼生) ◎<i>Asciacea</i> (egg) [++] (オキアミの卵) ○<i>Oikopleura labradoriensis</i> [+]◆ (尾虫類：オキアミ・マダヤ)	(NORPACネット) ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [+++] (カイアシ類：シュウト・カラス・ニューマニ) ◎<i>Metridia pacifica</i> [++]◆ (カイアシ類：メトリヂ・イ・パ・シフィカ) ◎<i>Oithona atlantica</i> [++] (カイアシ類：オイナ・アトランティカ) ◎<i>Harpacticus</i> sp. [++] (カイアシ類：ヨコミジ・シノ属) ◎<i>Balanomorpha</i> (nauplius) [++] (フジ・ツバ・類のノーブ・リウス幼生) (北原式定量ネット) ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++]◆ (カイアシ類：シュウト・カラス・ニューマニ) ○<i>Metridia pacifica</i> [+]◆ (カイアシ類：メトリヂ・イ・パ・シフィカ) ◎<i>Eurytemora herdmanni</i> [++]◆ (カイアシ類：ユリテモラ・ヘルド・マニ) ○<i>Oithona atlantica</i> [+] (カイアシ類：オイナ・アトランティカ) ◎<i>Oithona similis</i> [++] (カイアシ類：オミカミジ・シノ) ◎<i>Copepoda</i> (nauplius) [++++] (カイアシ類のノーブ・リウス幼生) ◎<i>Asciacea</i> (egg) [++] (オキアミの卵) ◎<i>Copepoda</i> (nauplius) [++++] (カイアシ類のノーブ・リウス幼生) ○<i>Balanomorpha</i> (nauplius) [+] (フジ・ツバ・類のノーブ・リウス幼生) ◎<i>Thy. inermis</i> (metanauplius) [+]◆ (オキアミ類：サイサ・エッサ・イナ・ミスのメタノーブ・リウス幼生) ◎<i>Thy. inermis</i> (nauplius) [++]◆ (オキアミ類：サイサ・エッサ・イナ・ミスのノーブ・リウス幼生) ◎<i>Thy. inermis</i> (nauplius) [++]◆ (オキアミ類：サイサ・エッサ・イナ・ミスのノーブ・リウス幼生) ◎<i>Asciacea</i> (egg) [++] (オキアミの卵)	(NORPACネット) ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++]◆ (カイアシ類：シュウト・カラス・ニューマニ) ◎<i>Tortanus discaudatus</i> [++]■ (カイアシ類：トルタス・デ・イスカウダ・タス) ◎<i>Oithona atlantica</i> [++] (カイアシ類：オイナ・アトランティカ) ○<i>Hybocodon</i> sp. [+] (クラゲ類：ヒトツアシクラゲ 属) ◎<i>Rathkea octopunctata</i> [++]● (クラゲ類：シモクラゲ) (北原式定量ネット) ◎<i>Pseudocalanus newmani</i> [++]◆ (カイアシ類：シュウト・カラス・ニューマニ) ○<i>Tortanus discaudatus</i> [+]■ (カイアシ類：トルタス・デ・イスカウダ・タス) ◎<i>Oithona similis</i> [++] (カイアシ類：オミカミジ・シノ) ◎<i>Copepoda</i> (nauplius) [++++] (カイアシ類のノーブ・リウス幼生) ○<i>Balanomorpha</i> (nauplius) [+] (フジ・ツバ・類のノーブ・リウス幼生) ◎<i>Thy. inermis</i> (metanauplius) [++]◆ (オキアミ類：サイサ・エッサ・イナ・ミスのメタノーブ・リウス幼生) ◎<i>Thy. inermis</i> (nauplius) [++]◆ (オキアミ類：サイサ・エッサ・イナ・ミスのノーブ・リウス幼生) ○<i>Oikopleura labradoriensis</i> [+]◆ (尾虫類：オキアミ・マダヤ) ○<i>Phyllodocidae</i> (larva) [+] (多毛類：サバ・コ・カイ科の幼生) ○<i>Spionidae</i> (larva) [+] (多毛類：スピ・コ科の幼生)
備考	(NORPACネット) — (北原式定量ネット) 珪藻やや多い	(NORPACネット) 腐植質やや多い (北原式定量ネット) 珪藻・腐植質やや多い	(NORPACネット) 腐植質やや多い (北原式定量ネット) 珪藻多い

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl. aのグラフは、水深0～9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl. a欄の数値は、表示の都合上、水深0～9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名 “*Thy. inermis*” は “*Thysanoessa inermis*” の略称である。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”はサンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである([+]出現、[++]やや多い、[+++]多い、[++++]かなり多い、[+++++]極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである ◆冷水性種、●暖水性種、■汽水性種。

※4月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)、腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む。

※参考文献：

- ①千原・村野 (1997) 日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]／②山路 (1966) 日本海洋プランクトン図鑑[保育社]／③岩国市立微生物館 監修 (2011) 日本海産プランクトン図鑑[共立出版]
- ④Wilson, M. S. (1966) North American Harpacticoid copepods, 8: The *Danielssenia sibirica* group, with description of *D. stefanssoni* Willey from Alaska. *Pac. Sci.* **20** (4), 435-444.
- ⑤Pinchuk, A. I. & Hopcroft, R. R. (2006) Egg production and early development of *Thysanoessa inermis* and *Euphausia pacifica* (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. *J. Exp. Mar. Biol. Ecol.* **332**, 206-215.
- ⑥林 (2006) 水産無脊椎動物学入門[恒星社厚生閣]／⑦Ohtsuka, S., Itoh, H. & Mizushima, T. (2005) A new species of the calanoid copepod genus *Centropages* (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? *Plankton Biol. Ecol.* **52** (2), 92-99.
- ⑧西・加藤 (2002) 日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について。タクサ. **13**, 5-17.／⑨今島 (1996) 環形動物 多毛類[生物研究社]／⑩日本プランクトン学会 監修 (2011) ずかん プランクトン[技術評論社]／⑪水島・鳥澤 監修 (2003) 漁業生物図鑑 新北のさかなたち[北海道新聞社]
- ⑫古賀 (1960) *Centropages abdominalis* SATOのノープリウス幼生。日本水産学会誌. **26** (9), 877-881.／⑬伊藤・水島・久保田 (2005) 駿河湾三保沖におけるカラス目カイアシ類の季節的消長。東海大学紀要海洋学部. **3** (1), 19-35.
- ⑭大越・野村 (1990) 穿孔性多毛類*Polydora*属による北海道地方、東北地方沿岸のホタテ貝浸食状況。日本水産学会誌. **56** (10), 1593-1598.／⑮釜水・久保田・平野・リンズィー (2015) 日本クラゲ大図鑑[平凡社]／⑯奥谷 (2017) 日本近海産貝類図鑑【第二版】[東海大学出版部]
- ⑰大塚・上田・岩淵・伊東・徐・坂口・平野・木村・上野 (2007) 移入種か、在来種か？：清水港から記載された浮遊性カイアシ類の1種の導入の可能性を検証する。日本プランクトン学会報. **54** (1), 30-38.／⑱西村 (1992) 原色検索日本海岸動物図鑑[1][保育社]

出現量の多かった種類



・*Pseudocalanus newmani* ◆
(カイアシ類：シュウト・カラス・ニューマニ)
体長：♀0.9-1.5mm、♂0.8-1.2mm。北半球の亜寒帯・寒帯および北太平洋温帯寒流域に分布する。東北以北の沿岸では冬季最優占カイアシ類の1種となる。



・*Oithona atlantica*
(カイアシ類：オイナ・アトランティカ)
体長：♀1.1-1.4mm、♂0.8mm。太平洋、インド洋、大西洋の寒帯・亜寒帯に分布する。日本では冷水域の沿岸・外洋で普通に出現する。



・*Oithona similis*
(カイアシ類：オミカミジ・シノ)
体長：♀0.7-1.0mm、♂0.6-0.7mm。日本では各地の内海、沿岸、外洋で普通に出現する。各大洋に広く多く分布するが、比較的冷水を好み、外洋より沿岸に多い。



・*Copepoda* (nauplius)
(カイアシ類のノーブ・リウス幼生)
カイアシ類の発生途中の幼生。脱皮を繰り返し複数の発生段階を経て成体になる。海産魚類の仔魚生後には餌としてのカイアシ類のノープリウス幼生密度が決定的といわれている。



・*Thysanoessa inermis* (nauplius) ◆
(オキアミ類：サイサ・エッサ・イナ・ミスのノーブ・リウス幼生)
体長(成体)：♀30mm、♂25mm。北太平洋亜寒帯、ベーリング海、日本海北部、オホーツク海の300m以深に分布し、北極海、大西洋北部にもみられる。紋別では主に4～5月に幼生と卵が見られる。